

編集後記

昨年末、中国武漢市でアウトブレイクした新型コロナウイルスが猛威をふるっている。1月末にはWHOが「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を発表し、その後、本ウイルスにともなう感染症を「COVIT-19」と名付けた。本原稿を書いている2月上旬で、中国本土における感染者は4万人を超え、死者も1,000人を上回った。しかしその致死率は中国国内で2%、そして中国以外での致死率は約0.2%とされ、近年流行したエボラ出血熱（約50%）、中東呼吸器症候群MERS（約34%）、重症急性呼吸器症候群SARS（約9%）などと比較するとさほど高くはなさそうである。一方、アメリカではこの冬インフルエンザが流行している。約2,200万人が感染し、少なくとも1万2千人が死亡したと推定されている。感染率を考えるとこちらの方が脅威かも知れないが、日本では新型コロナウイルスの影響でマスク着用や手洗いが励行され、今年はインフルエンザの大きな流行はないという。皮肉なものである。

コロナウイルスは一本鎖RNAで構成されたウイルスで、表面に存在する突起が王冠crownに似ていることから、ギリシャ語にちなみコロナ（corona）と名付けられたようである。SARSもMERSもコロナウイルスが原因であるが、前者は中国のジャコウネコ、後者はヒトコブラクダが感染源と推定されている。今回のものはコウモリが感染源の候補として挙げられている

が、未だ確証は得られていない。ところで一昔前は、“アメリカがくしゃみをすれば、世界中が風邪を引く（When America sneezes, the world catches cold）”と言われていたが、現在は“中国がくしゃみをすれば世界中が風邪を引く”時代である。新型コロナウイルスの影響はすでに広く世界経済にも及んでいる。経済のみならず、春からの学会シーズン、また7月からはじまる東京オリンピックにまで影響を及ぼさないか心配なところである。

さて今回の特集はタイムリーにも感染症の話題であり、稲葉裕先生ご企画の「国際コンセンサスからみた整形外科感染対策における最新知見」である。整形外科治療は、鏡視下手術、人工関節、そして再生医療と日々進歩を遂げてきたが、未だ手術部位感染や人工関節周囲感染などを予防することはできず、またその治療に難渋している。2018年7月にアメリカで開催された第2回国際コンセンサス会議の内容は昨年すでに日本語に訳され刊行されているが（『整形外科感染対策における国際コンセンサス—人工関節周囲感染を含む筋骨格系感染全般』編集 田中康仁、宗本充）、これは450ページを超える非常に膨大な資料である。今回の特集は、この内容を各領域のエキスパートがコンパクトにまとめ解説している。是非ご一読いただき、明日からの診療に役立てていただきたい。

（石橋恭之）

「整形・災害外科」第63巻 第3号（3月号） 2020年3月1日発行（毎月1回1日発行） 定価（本体2,500円＋税） 年間購読料金 定価（本体39,400円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。